

## 6年生科目

科目名	学年	時期	単位	必修・選択	授業形式	一般目標
卒業研究	6	前期	10	必修	研究	薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。
在宅医療学	6	前期	1	必修	講義	在宅医療の仕組みと意義を理解し、地域医療に貢献できる知識と態度を修得する。
緩和医療学	6	前期	1	必修	講義	緩和医療の意義を理解し、個々の患者に合わせた緩和医療の実践に貢献できる知識と態度を修得する。
医薬品食品相互作用学	6	前期	選1	選択必修	講義	医薬品食品相互作用学では、医薬品が作用する過程における食品の影響について知識を修得する。
薬局管理学	6	前期	選1	選択必修	講義	地域社会に貢献できる薬局を運営できる薬剤師になるために、薬局管理の基本、地域薬局の役割、医療保険制度、セルフメディケーション、リスクマネージメントなどを修得する。
漢方処方薬剤学	6	前期	選1	選択必修	講義	漢方処方の特徴的な剤形や効能について修得するとともに、適応症を広げるための基本処方から派生する方剤の組み立て方について修得する。
臨床漢方実践学	6	前期	選1	選択必修	講義	臨床において適応される漢方薬や中医処方を正しく安全に使用できるように、中薬や日本薬局方収載以外処方を含む処方薬について、処方の組み立て方や、服用上の注意点、副作用などの実践的知識を修得する。
実践医療薬学	6	前期	選1	選択必修	講義	薬物治療の実践に関して、臨床薬剤師として高いレベルでの貢献が図れる。
臨床腫瘍薬学	6	前期	選1	選択必修	講義	腫瘍に対する薬学的・全人的医療を修得し、その実践を講ずることができる。
物理特論	6	前期	1	必修	特論 論習	物理系薬学の基本的事項（物質の物理的性質、化学物質の分析など）について総合的に復習することにより、物理系分野の理解を深める。さらに、医薬品の物性や分析、臨床分析など、医療との関連性を考えながら学習することにより、薬剤師に必要な物理領域の専門知識を修得する。
化学特論	6	前期	1	必修	特論 論習	有機化合物としての医薬品Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳおよび薬と化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲなどの化学系薬学の基本的事項について総合的に復習することにより、化学分野の理解を深める。本講義では、医療を化学の目でみるができる薬剤師になるために、化学分野の学問的基盤を固めることを目的とする。
生物特論	6	前期	1	必修	特論 論習	生物系薬学（生命現象の基礎、生命体の成り立ち、生体防御と微生物など）の基本的事項について総合的に復習することにより、生物分野の理解を深める。さらに、医療との関連性を考えながら学習することにより、病気を分子・遺伝子・細胞レベルで深く理解することを目的とする。
衛生特論	6	前期	1	必修	特論 論習	健康と環境に関する衛生薬学分野の基本的事項について総合的に復習することにより理解を深める。さらに、薬剤師の幅広い職域にも視点をおきながら学習することにより、衛生薬学の見地から、社会や医療に貢献することを目的とする。
法規・制度・倫理特論	6	前期	1	必修	特論 論習	法規・制度・倫理に関する基本的事項について総合的に復習するとともに、5年次の実務実習で経験した事項に関連づけながら学習することにより、薬事に関する法規や制度、医薬品の開発に関する制度、医療現場における薬剤師の心得や倫理などについて理解を深める。
薬剤特論	6	前期	1	必修	特論 論習	薬剤（物理薬剤、生物薬剤、薬物動態、製剤など）に関する基本的事項について総合的に復習することにより、医薬品の適正使用に貢献するための知識を深める。
薬理・病態・薬物治療特論	6	前期	1	必修	特論 論習	薬理・病態・薬物治療に関する基本的事項について総合的に復習することにより、薬理・病態および薬物治療の知識を深める。さらに、実務実習で培った実践的知識を融合させ、医療現場で医薬品の適正使用に貢献することを目的とする。
実務特論	6	前期	1	必修	特論 論習	実務実習における“ふりかえり”を行い、薬剤学、薬理学、病態・薬物治療学との機能的な融和を修得する。これにより、6年制薬学教育を受けた薬剤師として、医療現場における実践力を身につけることを目的とする。
薬学総合演習Ⅱ	6	後期	4	必修	演習	近年の新しい医療技術、あるいは医薬品の創製・適用における先端科学技術に適応できる薬剤師に必要な薬学の基本的知識を統合的に修得する。